



第五十六回みやぎ国体

群馬少年男子踏査第一位

群馬岳連国体委員長 角 田 二三男

第五十六回みやぎ国体秋季大会

山岳競技会は、蔵王町を中心会場として開催された。本県は成年男女、少年男女とも全種別が出場を果たし、男女総合(天皇杯)が九位、女子総合(皇后杯)は十位と、惜しくも入賞を逸したものの、各種目で活躍した。

特に、少年男子は本年を最後にして廃止される踏査競技で大健闘、第一位という快挙を成し遂げ、見事大輪の花を咲かせた。

県体協強化指定の成年女子は、一昨年総合八位、昨年七位の入賞

メンバーで、今年も上位入賞が期待されたが、踏査を失敗して七位にとどまった。

成年男子は、踏査を順当に取り、登攀も順位を上げたが、得意の縦走が不調で総合入賞を逸した。

◎大会日程
十月十二日(金) 監督会議
十三日(土) 開始式
十四・十六日 競技
十七日(水) 表彰式

◎成績および選手団

◇男女総合(天皇杯)
第九位(得点三十七・五点)

◇女子総合(皇后杯)
第十位(得点十七・五点)

◇成年男子

総合 第十位

縦走 第八位(入賞)

踏査 第三位(入賞)

登攀 第三十五位

監督 赤松久宇(太田山岳会)

選手 楠木 毅(群馬県庁)

桜井正宏(月夜野町役場)

林 幸男(自営業)

◇成年女子

総合 第七位(入賞七・五点)

縦走 第八位(入賞)

踏査 第十一位

登攀 第四位(入賞)

監督 山田 豊(沼田山岳会)

選手 法領田恵(前橋山岳会)

女屋寿美子(前橋山岳会)

加藤揚子(沼田山岳会)

◇少年男子

総合 第五位(入賞二十点)

縦走 第十位

踏査 第一位(入賞)

監督 長谷川喜久男(高工高)

選手 松本 大(前橋高校)

斉藤 大(渋川高校)

茂木智紀(高経大附高)

◇少年女子

総合 第十三位

縦走 第十位

踏査 第十二位

監督 橋爪俊之(沼田女子高)

選手 椎原優子(沼田女子高)

田口照子(沼田女子高)



石村梨紗(高経大附高)

◇支援スタッフ

中原正喜(岳連参与・ミヤマ山岳会)

◇帯同ドクター

矢端信義

(県体協スポーツドクター・桐生厚生総合病院)

桐生厚生総合病院



みやぎ蔵王の青い空

少年男子監督 長谷川 喜久男

国体も終わり、ある種の重圧から解放されたような今でも、遠刈田温泉の青空が脳裏を離れません。それは、一生の心に残る記念日の十月十五日のことです。なんと、踏査競技において第一位となることができましたのです。競技会場では興奮していて、周りもよく見えなかったのでしょうか、宿舎の遠刈田温泉に帰って、いつものようにジョギングを始めて見上げたときに、抜けるような青空と紅葉の山々が迫ってくるように見ええました。みやぎ蔵王には合宿で何度か行きましたがその都度天気が悪くて、山々の眺望がほとんどありませんでした。それが、競技が始まると青空が戻っていました。この日初めて、その青空に祝福され、長かった準備期間を懐かしく振り返りながら、ジョギングを心ゆくまで楽しむことができましたのです。この青空はいつまでも私の心に残っています。

十五日の踏査競技では、前日の縦走競技十三位からして、群馬県チームが一位となるなど誰も思いもつかなかったと思います。私自身も入賞を狙ってはいても、まさか一位となれるなど考えられなかったくらいです。踏査競技は今年



で最後となり、この競技への思い入れをすべて込め、これに賭けて準備してきました。他チームに見劣りする縦走力を読図力でカバーし、全コースを全力で走り切る作戦でした。これが見事的申し、読図に要する時間を完璧に最小限にすることができました。選手の努力が実を結び、運にも恵まれしました。見ている私も震えが来るようなゴールシーンでしたし、感涙で我を忘れるような結果発表でした。最後となった踏査競技で有終の美を飾ることができました。このとてつもなく幸せな結果を残してもらった、すべての関係者の皆さんに心から感謝いたします。重ねて、選手の皆さんの精進に敬服し、健闘をたたえたいと思います。

国体を終えて

少年男子選手 松本 大

新世紀宮城国体は、今までの人生の中で、私が一番輝けた時だ。大舞台で楽しく走り、踏査で第一位、総合第五位入賞というすばらしい成績は、一生誇りにできることだ。

私は四月からの半年間、国体入賞を最終目標に、仲間達と力一杯努力してきた。合宿の練習は辛かったが、最後まで自分を追い込むことができたのは、共に苦しみ、競い合い、時にはグリングリーンを歌った仲間の存在が大きい。互いに必死に頑張る姿を見せる事で刺激し合うすばらしい雰囲気、群馬県チームにはあった。また、何回も送迎し、読図を指導し、豪華な食事を作り、ダジャレを言ったりなど雰囲気をつくり、休日返上でサポートしてくださった先生方には本当に感謝している。

仲間達や先生方に支えられ、思いつき走りることができた私は本当に幸せ者だ。まさに、この宮城国体での成績は、群馬高体連登山部全員のチームワークで勝ち取ったものだ。

充実した日々

少年女子選手 田口 照子

最初は嫌々ながら参加した県予選。大会で山を走るなんて初めてのこと、しかも下見にも行かずに本番を迎えたために、とても緊張しました。

国体の強化選手に指定されると、合宿の回数が増えに多いことにとってもショックを受けました。しかし、最初は緊張していた合宿も、始まってみると意外に楽しいものでした。

重りの入ったザックを背負い、スタートを待つ時の緊張感。そして走っている時の苦しさ。今思うと、スゴイ事をやっていたなあと、思います。でも、走り終わった後のあの爽快感はめつたに味わるものではないと思います。

合宿に参加できてよかったもう一つの事は、他校の山岳部員や先生との交流を持てたことだと思います。山岳部に入っている人は、本当に山が好きなんだという事を感じました。

又、私は踏査の担当として読図をやらせて頂きました。本国体では良い結果を出せなくて本当に申し訳ありませんでした。

結果は出せなかったけれど、国体の合宿や大会に参加して、とても充実した日々を送ることができたと思います。国体に出場することができ、本当に良かったです。

自信を与えてくれた山

少年女子選手 椎原 優子

「受験に役立つから大会に出てみよう」。先生のこの一言が大会出場の切っ掛けでした。

去年まで、総体の下見中に国体予選をおこなっているのをたびたび見かけたが、「山を走って登るなんて、邪道だなあ」なんて事を先輩と話していた。それが今年自分が参加する事になるとは……。

県予選では、踏査が思っていたより出来ていなくてびくつきしました。そんなこんなで終わってみたら一位になり、強化選手に指定され合宿生活を送るといふ何もかもが初めての事で、あわてたりしました。でも、合宿生活も慣れてくると私生活を持ち込んだり、リラックスした気分で合宿にのぞめました。この合宿では、山にかける前と戻った後で、自分の生活が微妙に変わっていました。ある時は風景に感激し、「夢」を見たり、生きる自信をつけたり……。山はたえず私に何かを伝えようと、たえず答えを見つけてる事で自分に自信をつけてきました。

宮城国体ではあまりよい成績は残せなかったが、高校生活最後の年にこのような体験が出来たのはとてもよかったです。これからも趣味で山に登り続けたいです。

あゝ国体

成年女子選手

法領田 恵

七年前、千葉での関プロを前に国体デビュー。すっかりはまり、国体で勝つこと、強くなることだけを考えて生きてきた。

福島国体で本国デビューするも翌年から三年間は負け続け、それでも夢は捨てなかった。勝つために何をすべきか、どうすれば強くなるのか、ひたすら考え試行錯誤した日々。

そして熊本、富山と本国出場するも不運なアクシデントで八位、七位止まり。でも実力的には三位以内に入っているという手応えを実感。一層トレーニングに熱が入り迎えた今年、頭の中は国体で勝つことで一杯だった。強化は順調に進み、本番一週間前の合宿でも充分な手応えを感じ、あとは疲れをとって万全を期して臨もうと思ったところまではよかった。思わぬトラブルで二日間徹夜、発熱、最悪な状態での現地入り。そして一日目の縦走を迎えてしまった。

今までやってきたことの全てを出すべき時を、何でこんな状態で迎えないといけないのだろう。怒りと悔しさを胸に、口では「絶好調、絶好調」と言い聞かせながらのスタート。思うように動かな

い体で、それでも精一杯走る。折からの悪天候に体は悲鳴をあげる。どうしてこんなに体が動かないのだろう、どうしてこんなにペースがあがらないのだろう。悔しいというより情けなかった。

寒風の中で見るゴールデンタイム。練習のタイムより四分以上遅いと知った瞬間、あの夏の日の練習、痛む体にムチ打って走り続けた日々、冷たい雨の中震えながら走ったこと、人の倍は練習しようとして勝ちたいと思いつけた国体への情熱……すべては無になった。

勝負はきびしいものである。初日のつまずきが二日目のクライミングのミス呼び、さらに三日目、あとのない焦りから踏査でのミスを招く。結果、総合七位。目標の総合三位ははかなく消え去り、最低でも思っていた総合五位、皇后杯の表彰台に登るという夢も幻となった。

ぶつけようのない悔しさ、そしてはかなく砕け散った夢の残骸をもてあましながら、今、私は新たな一步をどう踏み出そうか悩んでいる。

平成十三年度

群馬県山岳連盟登山教室

群馬岳連指導委員会

日向野 克己



一、はじめに

十月二十一日付けの『上毛新聞』コラム「三山春秋」に、本連盟主催の「登山教室」に関する記事が載った。内容は、この欄を執筆している記者が、実際にこの登山教室を受講し、そのときの模様や所感などを述べたものである。

記者は、利根川源流域自然環境学術調査の同行取材もやっており、それがきっかけでしばらく忘れていた山の魅力を思い出して登山を再開しようとしたが、基本が分かっていないことに気づいて、というのが受講の動機であったという。「地形図の読解術、コンパスの使い方、救急法、天気図と天気予報、…講座を受け、どれも必須の知識だと痛感した。」と所感を述べ、一方で、中高年者の登山が多いことに理解を示しながらも、「しかし、身近な山でも、天

候や体調によってアクシデントがある。荷は軽いに越したことはないが、欠かすことのできない物はある。指導員の持ち物を見て、『自分の命は自分で守る』ことを知った。」と結ばれている。

また、十一月四日付けの同紙投書欄の「ひろば」には、この登山教室を受講した女性の一文も載せられている。

この女性を受講したあとの感想として「安全な登山を楽しむためには、いかに基本的な知識が重要かを痛感しました。」と書いた後、具体的な読図、天気図の読み方、救急法、装備、登山実技などについて、大変勉強になったと記している。

今年度の登山教室の目的、ねらいは、これら「受講者」側からの視点による発言から見ても、ほぼ達成されたとみて差し支えはないように思われる。

二、今年度の登山教室大要

今年度の登山教室は、左記の日程及び内容で行われた。

第一回 九月十一日(火)

開講式及び「地図の読み方」

第二回 九月十八日(火)

「山で役立つ救急法」

第三回 九月三十日(日)

登山実技「鼻曲山登山」

第四回 十月二日(火)

「天気図の読み方」

第五回 十月十四日(日)

登山実技「裏妙義登山」

第六回 十月十六日(火)

「登山教室まとめ」及び閉講式・修了証交付

座学の中で、読図は前年度からの継続とし、コンパス操作の習熟については特に徹底をはかった。

救急法についても一工夫を加え、今回は特に整形外科医師に依頼し、現場での救急処置の仕方について、特に高度の専門知識や技術がなくても出来得ることについて話してもらった。山の天気については、身近な新聞天気図を使っての解析に重点を置き、正確な天気図の読みとりが出来るようにした。また、高層天気図の理解が出来れば、さらに詳細な天気変化も分かることを示し、天気予測のための情報収集についてはインターネットの活用にも触れた。

実技登山については、受講生九八名を五班に分け、それぞれの班に指導員二名を配置し、登山行動は全て班単位で行うことにした。指導内容はあらかじめ作成しておいたマニュアルに従い実施し、班によって指導の漏れがないようにした。

今回の登山は鼻曲山と裏妙義という比較的小規模の山域であったことから、登山行動については出発時間の時差も考慮した。

三、登山教室の果たす役割

登山教室が、当初から掲げてきた「安全で楽しい登山のための基本的な知識と技術の習得」というテーマは、近年とみに盛んになったと言われる中高年者を中心にした登山人口の増大に比例するような形で増えている遭難事故の抑制力となりうる可能性も示唆してい

と思われる。

まだ記憶にあたる浅間山における中高年者の遭難事故をあげるまでもなく、危険予知のための登山知識・技術は、入山する上で必須のものであるにもかかわらず、依然として無防備な登山者が後を絶たないという現状がある。

もしも、ツエルトを一組持っていたなら、あたら命を失うようになることは防げたのに。もしも、簡単な救急法の知識があり、テープの扱いなども知っていた、その用具を持っていたなら、夜の山に取り残されることもなかったであろうになどと、遭難事例を見て悔やまれることは多い。

問題は、まだこうした事実に関心せず、山の危険についても関心を持たない人が多く、従ってこの種の講座に近づこうとしない登山者層が圧倒的に多いということである。赤城や榛名に出かけるのに、そんな面倒なことをする必要はない、と言う人たちがいるという事実である。「天気がいいから、山にでも行ってくるか」と言っただけで単に出かける人たちのなかには、山の装備のことなどあまり意識がない。昼飯とお茶・お菓子があればいいのである。その時晴れていれば、雨具は「重いから持たない」のである。

いずれにしても、山に入ることに関しては、まことに安易な考え方が横行しているということは、否定できないところであろう。こうした現状を見るにつけても、この登山教室は特に今だからこそ、啓蒙活動として位置づけることができると思われるのである。

四、今後の問題点

講座最終回では、「まとめ」として、参加者の意見・質問をふまえた話し合いを実施した。

提出された内容を項目として整理すれば、おおよそ次のようなことになる。

①登山を始めるとき、具体的にどのような山を選んだらよいか。②日常のトレーニングは、どうしたらよいか。③単独行の良さと危険について。④悪天候の判断をどう行うか。⑤非常食は何がよいか。⑥雷を防ぐ方法について。⑦クマの危険について。⑧携帯電話の活用について。⑨岩場のこなし方について。⑩ロープの使い方の講習を開いてもらえないか。

これらは、いずれも基本的な事柄ばかりで、特に専門的な事項ではない。しかし、参加者が直に日頃か感じていることを発言したという点では重要な意味がある。基本事項は、たとい重複したとしても、何度も確認する事が大事だからである。

今回、受講者の中にたまたま獣医師の方がいたのであるが、最終回の話し合いで、⑦のクマの危険については、専門的な立場での話をして頂いた。これなどは意見交換としても、非常に参考になったという感想を参加者から聞くことができた。

この最終回のまとめで、今後に残された問題点が浮かびあがる。その第一は、要望事項として提出された⑨⑩の項目にも窺われる新しい講座内容への発展である。毎年、この講座に参加し、自分でも積極的に山に向かう回数を重ね

ね、内容的にもさらに上のランクの山行をねらいたいと言う層が出て来ているということである。具体的には、岩登り、氷雪、冬山、さらには海外の山といった領域への指向である。これらの内容について、その初歩的な指導をする講座が個々に開ければ、大方の要望に応えることはできる。

現在、岳連傘下の山の会を対象とした講習会は毎年開かれている。雪上技術、クライミング、アイスクライミング、冬山、その他種々の机上講習もある。しかしながら、これらは一般の初心者を対象とした内容ではないので、これをこのまま一般に開放するというわけにはいかない。先の問題として考えるには、全く発想を変えたプログラムが組まなければならないのである。

第二として、登山知識や技術に全く関心のない「登山者」を、いかに教育するか、である。これはある意味では最大の難問であるかも知れない。面倒くさいことは考えず、好き勝手に山に入り楽しければいいという人たちが、圧倒的に多いこの種の人々の気持ちを、如何にこちらへ向けさせるか。

山頂で、たとえば山座同定などをやっているとき、そこに居合わせた他の登山者が、熱心に我々を見つめていることがある。この好奇心なまざしこそ、これからの可能性かもしれない。山の知識・技術を身につければ今よりもっと楽しくなることは間違いないのである。このことを念頭におき、また地道な努力をしていくことが、真の啓蒙活動であろうか。

自然保護委員総会開かれる

群馬岳連自然保護部長

小泉 俊夫



商人による盗掘問題についてなどであった。水質調査を行っていた岳連も見られた。講演では、日本百名山「荒島岳」の現状についてと題して行われた。

最近の登山ブームに伴い荒島岳も入山者が激増し、もともと土質が軟らかくもろい山なのでブナ林に延々と続く道は登山靴に踏まれ、土が削られ木の根がむき出しとなって階段状に。立ち枯れも出るありさまだ。歩きにくいために、こうした箇所は迂回され、さらに荒廃が拡大。山頂近くでは人の背丈ほどに道がえぐられ、すっかり姿を変えてしまった。今は、市・県により整備が進み出した。木の階段と麻袋の土のうで応急整備されてきた。

講師の締めくくりは、日本の山は自然に帰るのが早い、だから本当は放置すれば(人が行かなければ)すぐに元に戻るとのこと(?)。いずれにしても荒れ対策は待ったなしの状況である。

二日目は例年近郊の山へ登山に出かけたが、今年は講演と全体会議が行われ、最後に今年五月に行われた「山をきれいに、トイレをよくする松本宣言」の再確認というところで宣言し解散した。

群馬からは、小林次郎、寺内正明、小泉俊夫の三名が参加した。平成十四年は第二十六回で、岩手県で開催される。

平成十三年度日山協自然保護委員総会が、十月二十七日(土)・二十八日(日)、福井県南条郡今庄町において開かれた。参加団体は二十二都府県岳連。約八十名が出席した。

一、目的

山岳および登山者に関わる自然環境の諸問題について討議し、具体策を提案する。

二、テーマ

『身近な自然の保全に関する登山者の役割』と題し話し合われた。

主な検討議題としては

- ①登山者とトイレの問題について
- ②高山植物の保護問題について
- ③鹿や猿などによる食害について(大台ヶ原、大峰山オオヤマレンゲ、シラネアオイなど)
- ④酸性雨による立ち枯れ問題について
- ⑤オーバーユースと川や地下水の水質汚染、お花畑の踏み荒らし、

挑戦者であり続けた三人

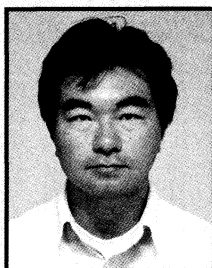
群馬ミヤマ山岳会会長

宮崎

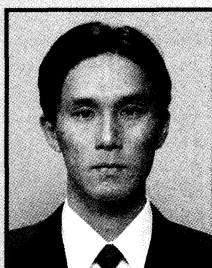
勉



星野 龍史君



品川 幸彦君



福本 誠志君

「十月中旬頃には登頂成功の一報を入れます」と言って出かけた三名でした。しかし、届いた一報は「三名が消息不明」という悲しいものでした。

ヒマラヤ登山の歴史は、一九六〇年アンナプルナー峰の初登頂を皮切りに、次々と八〇〇〇メートル峰が登られ、登山は高みへの挑戦の時代でありました。

一九七〇年代には、さらにより難しいルートからの登頂が始まり、より高き、より困難なルートからの新たな登山史が築かれてきました。

一九八〇年代に入ると、極地法という登山形態から少人数によるアルパインスタイルの登山方法がとられ、大きな広がりを見せてきました。ただ残念なことに、アルパインスタイルは少人数というまとめた誤った評価もありました。登山はより高き、より困難という条件のもとで行なわれるもので、ノーマルルートからの少人数

登山というのは登山では最も安全で簡単な方法であり、対象外の登山である。

より高き、より困難なルートの登山には、多くの危険と困難があり、立ち向かう者は強固な意志と行動力が要求され、さらに連続的に前進する内容の登山でなければならぬ。現在さらには無酸素という条件も加わり、ますます厳しさが求められている。

星野龍史君は、従来の極地法からの脱却をはかり、少人数だからこそ可能となるルートを求め、高みへの挑戦を続け、次のステップとしてこの山に向かいました。

品川幸彦君は、まず自身で多くの高所体験をし、その中より自分で行うべき次なる登山を捜しておりました。

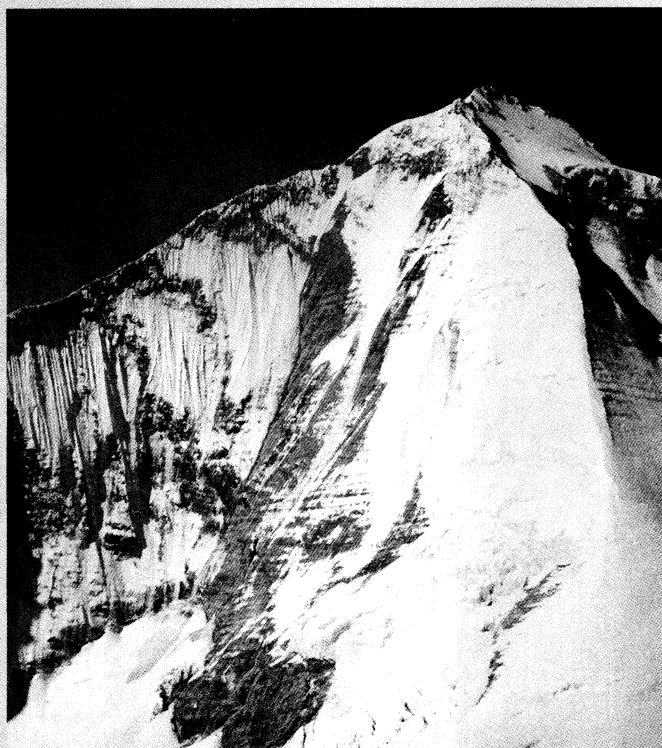
福本誠志君は、これら二人の先輩の姿を見て、彼らが作る次の登山への夢をもっておりました。それぞれがそれぞれの思いを込めて向かったダウラギリ東壁であ

り、大きな次への可能性を秘めた登山でありました。この三名の強い情熱は、まさに困難に立ち向かう挑戦者の精神を持っておりました。もし人間に二度の人生が許されるならば、東壁のあとの次の登山、そして次なる困難に立ち向かう姿が見られたはずで、残念ではありません。

今改めて時間が経つと、失った三人の大きさを痛感させられております。現在の当会では、彼らの

意志を継ぐべき力もなく、又、彼らの登山を評価できる者もおりません。願わくば、誰かが彼らの意志を継ぎ、再び挑戦者として現れるのを待たばかりです。

多くの仲間とともに、三名の輝かしい足跡に敬意を表し、心より哀悼の意を捧げます。又、追悼会には七〇〇名をこえる多くの方々のご参列を頂き、会員一同心より御礼申し上げます。



第十二回山田昇記念杯登山競争大会 鏑木毅選手五連覇

群馬県連総務部 千明 政彦

平成十三年十月七日(日)、川場村・武尊山にて第十二回山田昇記念杯登山競争大会が開催された。今大会は、体育の日の連休と重なったため、それが参加人員に大きな影響を及ぼしたと考えられる。山田杯は六十一名(参加申込数七十名、欠場者九名)、三枝賞には四十六名(参加申込数五十三名、欠場者七名)、一般参加は五十三名の合計百六十名の参加者による大会となった。

山田昇記念杯の部では、昨年新記録で四連覇した鏑木毅選手(群馬県庁)がコースコンディションの極めて悪い中、二時間五分四秒の記録で堂々の五連覇を達成した。また、女子の部では、トップに斉藤きく代さんが三時間六分三十五秒(総合十六位)でゴールした。

三枝照雄賞の部では、今回も新潟県十日町高校の上位独占となり、樋口吉和選手が二時間二十分二十七秒のタイムで優勝した。午後三時には閉会式が行われ、大会を終了した。



山田杯スタート



激走



激走



山田杯ゴール



山田杯 2位齋藤・1位鏑木・3位吉田



三枝賞 2位柳・1位樋口・3位小山



女子の部 2位石坂・1位斉藤・3位高島

第 12 回 山田昇記念杯順位表 (2001. 10. 7)

順 位	氏 名	性 別	年 齢	所 属	時 間
1	鏑 木 毅	男	32	群 馬 県 庁	2時間 05 分 04 秒
2	齋 藤 亨	男	42	独 走 快 汗	2時間 20 分 51 秒
3	吉 田 浩 久	男	29		2時間 22 分 10 秒
4	山 田 豊	男	54	沼 田 山 岳 会	2時間 26 分 33 秒
5	渡 辺 幸 一	男	19		2時間 29 分 57 秒
6	デニス・オ・コーネル	男	33		2時間 32 分 38 秒
7	小 暮 岳 文	男	20	群 馬 大 学	2時間 45 分 57 秒
8	粕 川 嘉 久 治	男	50		2時間 47 分 11 秒
9	松 本 大	男	26	ま た ル ー ズ	2時間 48 分 24 秒
10	石 井 和 徳	男	39	公 立 藤 岡 総 合 病 院	2時間 48 分 51 秒
11	廣 瀬 昭 憲	男	50	県 立 高 崎 工 業 高 校	2時間 50 分 51 秒
12	春 日 乙 英	男	46	(株) 高 橋 工 務 店	2時間 52 分 36 秒
13	児 玉 雅 之	男	43	太 田 山 岳 会	2時間 54 分 12 秒
14	中 里 俊 太 郎	男	27	卵 型 歩 行 器	2時間 58 分 25 秒
15	大 谷 俊 行	男	44	大 泉 町 役 場	3時間 02 分 18 秒
16	斉 藤 き く 代	女	39	M n i x	3時間 06 分 35 秒
17	若 本 雅 史	男	38	伊 勢 崎 山 岳 会	3時間 09 分 18 秒
18	高 橋 巧	男	30	日 本 軽 金 属 (株)	3時間 12 分 03 秒
19	菊 池 英 智	男	30	太 田 山 岳 会	3時間 13 分 46 秒
20	鹿 山 知 之	男	42	太 田 山 岳 会	3時間 14 分 24 秒
21	飯 塚 敏 宏	男	25		3時間 15 分 00 秒
22	越 崎 多 聞	男	36	桐 生 山 岳 会	3時間 15 分 08 秒
23	長 山 栄 二	男	45	太 田 山 岳 会	3時間 16 分 23 秒
24	御 山 洋 一	男	42	G 登 攀 ク ラ ブ	3時間 17 分 51 秒
25	中 澤 安 信	男	58	伊 勢 崎 山 岳 会	3時間 21 分 35 秒
26	高 橋 俊 一	男	44	前 橋 警 察 署	3時間 21 分 45 秒
27	綿 貫 剛	男	29	沼 田 山 岳 会	3時間 22 分 20 秒
28	江 原 大 悟	男	27		3時間 23 分 15 秒
29	阿 部 源	男	48	大 間 々 山 岳 会	3時間 26 分 35 秒
30	斉 藤 長 作	男	58	松 井 田 山 岳 会	3時間 27 分 24 秒

第 12 回 三枝照雄賞順位表 (2001. 10. 7)

順 位	氏 名	性 別	年 齢	所 属	時 間
1	樋 口 吉 和	男	18	十 日 町 高 校	2時間 20 分 27 秒
2	柳 和 宏	男	17	十 日 町 高 校	2時間 22 分 57 秒
3	小 山 裕 太 郎	男	17	十 日 町 高 校	2時間 24 分 25 秒
4	宮 沢 年 樹	男	16	十 日 町 高 校	2時間 33 分 50 秒
5	斉 藤 裕 文	男	16	十 日 町 高 校	2時間 38 分 46 秒
6	高 橋 昭 彦	男	16	県 立 前 橋 高 校	2時間 38 分 59 秒
7	須 藤 俊 英	男	18	県 立 高 崎 工 業 高 校	2時間 54 分 33 秒
8	廣 岡 創 太 郎	男	18	日 本 大 学 工 学 部	2時間 56 分 28 秒
9	池 田 祥 子	女	17	十 日 町 高 校	2時間 56 分 31 秒
10	野 上 輝 樹	男	16	十 日 町 高 校	2時間 56 分 47 秒
11	櫻 井 信 佳	男	17	県 立 高 崎 工 業 高 校	3時間 08 分 50 秒
12	山 口 尚 己	男	17	県 立 高 崎 工 業 高 校	3時間 11 分 01 秒
13	田 島 諭	男	16	県 立 高 崎 工 業 高 校	3時間 11 分 37 秒
14	丸 山 剛 志	男	16	県 立 高 崎 工 業 高 校	3時間 12 分 44 秒
15	水 野 美 咲	女	16	十 日 町 高 校	3時間 14 分 27 秒
16	木 村 聡 嗣	男	17	県 立 利 根 実 業 高 校	3時間 14 分 33 秒
17	小 川 拓 己	男	16	県 立 利 根 実 業 高 校	3時間 16 分 53 秒
18	沢 田 哲 治	男	16	県 立 安 中 実 業 高 校	3時間 17 分 04 秒
19	鳥 山 義 則	男	17	県 立 利 根 実 業 高 校	3時間 31 分 12 秒
20	関 口 正 憲	男	16	県 立 前 橋 高 校	3時間 35 分 13 秒
21	荒 木 晋 作	男	16	県 立 渋 川 高 校	3時間 36 分 58 秒
22	武 井 賢 一 郎	男	16	県 立 渋 川 高 校	3時間 38 分 21 秒
23	藺 田 佳 子	女	17	県 立 沼 田 女 子 高 校	3時間 43 分 46 秒
24	上 原 郁 弥	男	16	県 立 安 中 実 業 高 校	3時間 47 分 19 秒
25	木 暮 正 裕	男	17	県 立 利 根 実 業 高 校	4時間 01 分 21 秒
26	川 口 奏 子	女	17	県 立 沼 田 女 子 高 校	4時間 07 分 34 秒
27	宮 島 孝 人	男	17	県 立 安 中 実 業 高 校	4時間 08 分 46 秒
28	時 沢 武 志	男	18	県 立 高 崎 工 業 高 校	4時間 09 分 26 秒
29	小 林 真 人	男	16	県 立 高 崎 工 業 高 校	4時間 10 分 38 秒
30	高 橋 俊 浩	男	15	県 立 高 崎 工 業 高 校	4時間 11 分 36 秒

第十七回群馬県民の日記念事業 第二十四回県民登山大会

太田山岳会 町田 幸男



一般B、家族向けCの三コースを設定。参加人員はAコース三六名、Bコース三四名、Cコース三五名、役員二五名の合計一三〇名。まずまずの参加であった。

開・閉会式場には湖畔の榛名町営駐車場を借用し、前日からテントの設営等を行った。当日は予定通り七時より受け付け、七時三十分より開会式を行い、曇り空の下、各コースへと出発した。尚、各コースと本部との無線中継を天目山においた。

Aコースは、関プロ大会の縦走コースを杖ノ神峠から掃部ヶ岳まで延長し、式場までとした。マイクロバスにてスタート地点のさわらび学園まで輸送、あらかじめお願いしておいた学園のトイレを借用し、八時十五分に歩き始める。車道を五分ほど戻り山道へ。途中林道に出てから、再び山道を進み、味噌玉岩を通過。

杏ヶ岳の急登に差し掛かるころから雨が降り始める。ただでさえ泥で滑る急登が更に登り辛くなり、遅れる人が出始める。杖ノ神峠にて昼食の後、予定を変更し、峠より直接式場へと向かった。

Bコースは、天神峠より榛名神社を経て、関プロ大会の踏査コースを一部使用し、天狗山から神社へ戻るルートとし、神社からはA

コースで使用したマイクロによる輸送とした。八時、ストレッチを済ませて出発。神社に差し掛かるころから雨が落ち始める。天候悪化により、コースを神社から天狗山往復に変更。靴の締め過ぎで足をいためた人とカッパを持ってこなかったという数名を資料館に残し、鏡台山コルを過ぎ天狗山に近づくと頃は雨は本降りとなった。行動をスムーズにするため、途中、パーティーを二つに分ける。滑り易くなった下り道を十二時無事資料館へ到着。マイクロにて閉会式場へ輸送した。

Cコースは、式場より林道を杖ノ神峠へ向かい、掃部ヶ岳を経て式場に帰る周遊コースとし、初心者を対象とした。他のコースより短いため、出発を八時十五分に遅らせる。一時間ほどで杖ノ神峠到着、掃部ヶ岳への登りとなる。雨のおかげで道は滑り、急登ではこれが初心者向けのルートですかとの声も聞かれたが、一時間二十分ほどで山頂につく。昼食を済ませ下山、十二時三十分には式場着。

式場では朝から三〇〇人分のきのこ汁を準備し、雨で冷え切った体を温めてもらった。全コースとも無事到着、予定を早め閉会式を行った。

大会までの準備としては、八月下旬より下見を開始し、多少の草刈りも行ったが、関プロ大会で役員参加した会員も多く、三回程度の下見で済んだ。台風により一部

のルートでは荒廃が著しかったが、設定変更により何とか回避できた。最も悩んだのが輸送用のバスの手配、テントや机等の準備であった。当初は榛名町役場にお願いがしたが都合が付かず、結局太田から全て調達、持参した。泥縄的な点は多分にあったが、何とか格好をつけることが出来た。

大会を振り返ると、今回雨具を持参しない方が数名みられ、開催要項の中に持参すべき物を明確にあげて欲しいとの声もあった。

我々から見ると、装備するのは当たり前のことではあるが、一般ハイカーの間ではまだまだ山に対する認識が甘いことを痛感した。多くの人に安全な登山を楽しんでいただくためにも、更なる技術の啓蒙が今後も必要であると感じた。しかしながら、ほとんどの方が、荒天の中、文句も言わずリーダーの指示に良く従ってくれた。

仲間の悲報を悲しむような雨の大会でしたが、各山岳会・関連団体のご協力により無事大会を終了できたことを感謝致します。

平成十三年度

冬山合宿について

群馬岳連遭難対策部長

松永 幸雄

平成十三年十二月十六日に生涯学習センターで、冬山合宿の検討会が開催されました。今冬は九パーティーが合宿を計画しました。

桐生山岳会四名が西穂高岳の西尾根。前橋山岳会六名が前穂高岳、明神岳西南稜。太田山岳会四名が前穂高岳北尾根。同じく太田山岳会五名が槍ヶ岳。境町山の会三名が剣岳早月尾根。同じく境町山の会八名が八ヶ岳の赤岳。松井田山岳会と独峰山岳会三名が甲斐駒ヶ岳、仙丈岳。沼田山岳会四名が白峰三山（北岳）。同じく沼田山岳会八名が谷川岳天神尾根という計画でした。

一月十六日に合宿の報告会を開催しました。沼田山岳会の白峰三山縦走パーティーが、日程はかかりましたが計画通りに行動した他は、すべて悪天候のため途中で引き返しております。

また、沼田山岳会の天神尾根パーティーは、肩の小屋からの下山中、道を見失い雪崩を誘発、三名が雪崩に巻き込まれ、二名は自力脱出しましたが一名は未だ行方不明です。この遭難に関しては後日詳細に報告したいと思います。

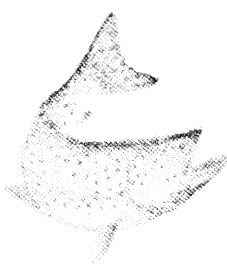
近年岳連の冬山合宿も年々参加者が減少し、高齢化、技術の低下等、気がかりなことが多くなりました。冬山ならではの意義と魅力があるわけですから、シーズン中に計画を持たない山岳会も、積極的に検討会に出席して研修と協議に加わってほしいと思います。更には、岳連加盟の各会から有志が集まり、内容のある冬山合宿を計画し遂行することができればよいと思います。

味の店 ドライバーレストラン

一本松さかい

利根郡白沢村（国道120号線） TEL.0278-53-2053

片品川国際マス釣場



星 野 水 産

〒378-0013 沼田市新町230-1

TEL 0278-24-1398

味のりんご

アンナプルナりんご園

沼田市上久屋町1231 TEL・FAX 0278-23-6802

Annapurna

墓 石 ・ 灯 籠 専 門 店



高

橋

石

井

高崎市石原町1497 TEL (027) 323-8867
 工場・高崎市八幡町1245-67 TEL (027) 343-0270

群馬むすびの会会員

電話、弱電工事

プ モ リ 電 設

〒379-2223

佐波郡東村東小保方252

☎ 0270-62-2012



(有) 山とスキーの店 石 井

DreamBOX

伊勢崎市宮子町1819-1

TEL 0270-21-8025

FAX 0270-21-8026

本店 (山の談話室 楼蘭)

伊勢崎市中央町18-8

TEL 0270-25-0272

T. H. I. CORPORATION

TEL: 03(5245)0511
FAX: 03(5245)0510
(株) ティ・エッチ・アイ

登山隊遠征

- ガモフバッグ、パルスオキシメーターのレンタル、販売
- 隊荷輸送
- 隊荷梱包用資材

個人手配からフルパッケージ・ツアーまで海外旅行に関するすべてをお手伝いします

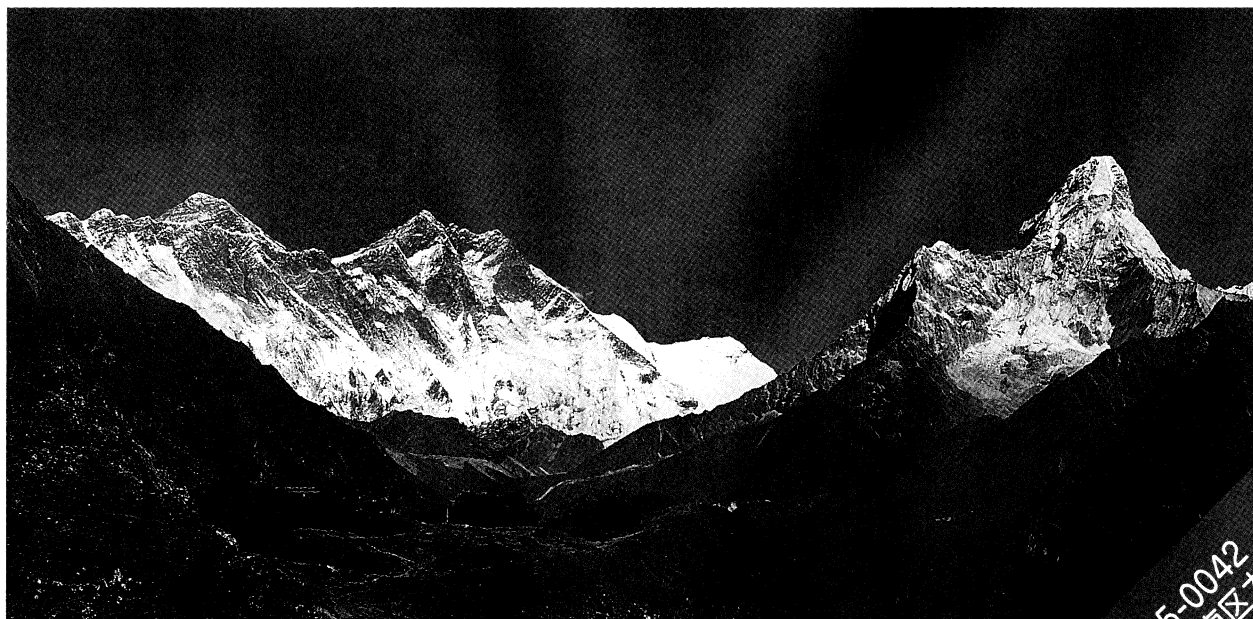
ディスカウント航空券

- 世界各地への航空券
- ホテル、交通機関の手配
- ビザ取得代行

トレッキング

- ネパール、インド、ヨーロッパ・アルプスを始め世界各地でのトレッキング、海外登山

何でもお気軽にご相談ください



T. H. I. CORPORATION

F135-0042
東京都江東区木場
2-5-7
KHビル7F



萬屋建設グループ

歴史、信用、技術をもって、21世紀の人間と環境を考える。



総合建設業 萬屋建設株式会社

会 長 星 野 光

■本社 群馬県沼田市上原町1756-2 TEL 0278-23-4648(代) FAX 0278-24-3371
 ■支店 東京都豊島区東池袋4-2-7 TEL 03-3985-7631 FAX 03-3982-5964

群馬県公安委員会指定（公認）

株式会社 沼田自動車教習所

群馬県沼田市横塚町1088-13 TEL 0278-24-4811 FAX 0278-23-7960

昭和シェル石油特約店 有限会社 丸萬石油

群馬県沼田市上原町1756
 TEL 0278-23-0018 ☎ 0120-41-0018

日本工業規格表示許可工場 建設生コン株式会社

本 社 沼田市上久屋2338-1 TEL 0278-24-3111
 大楊工場 利根郡利根村大字大楊187 TEL 0278-56-3682

総合建設業 株式会社 鈴木工業所

群馬県沼田市上久屋1162-5
 TEL 0278-22-2846 FAX 0278-23-6233

マンション 萬栄ビル株式会社

東京都豊島区東池袋4-2-7
 TEL 03-3971-3433 FAX 03-3982-5964